

## 05

# ウィンターサーカス

## Winter Circus



熊澤桂子《にんじんの塔》2009年 上富良野／深山峠会場

内容：北海道の地域資源である「雪」をつかったランドアートをアーティストが発想し、地域の人達が制作をサポートするアートプロジェクト。初回は旭川市西神楽の1会場からスタートし、徐々に会場を増やしながら、「シニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート」の旭川と占冠を結ぶ沿線や高速道路のサービスエリアなど広域に作品を設置。2009年以降は7会場で実施。全10回開催。

毎年、初日から2日間の17:00～20:00をメインの会期とし、ライトアップや映像上映、温かい飲食の提供、バスツアーなどのイベントを集中的に行なった。さらに、雪のオブジェが春の訪れとともに少しづつ溶けてなくなるまでをこのプロジェクトと位置づけ、太陽光や気温、降雨など自然の力で変わっていく形や季節の変化を楽しんだ。

特徴：各地域を道でつなぎながら、個性的な地域、美しい環境づくりを目指す施策「シニックバイウェイ北海道」の冬の取り組みとして、「大雪・富良野ルート」沿いの住民等の景観づくりへの意識の高まりを期待し始められた。アーティストによる、雪と景色が一体となったデザイン案のなかから、それぞれの地域が会場に設置する作品を選び、役場や商工会青年部、NPO、地元企業など、雪像づくりの経験のある地域の人達が制作をサポートするという、協働作業であったことが大きな特徴である。当初、各地域では、具象でないものや自分達で考えたものではないものを制作することに戸惑いもあったようだが、一緒に作業を重ね、魅力的な作品ができた達成感のなかで、相互理解が深まっていた。10年の開催を通して、外部のアーティストによる新鮮な視点が地域に導入されることで、新たな場の魅力の発見や愛着、アートや景観への関心、雪への興味などが育まれた。

また、初回の2006年から雪の造形への映像投影が行われ、その後恒例になったが、「さっぽろ雪まつり」で雪像へのプロジェクションマッピングが初めて行われたのが2013年であることを考えると、先駆的な試みとして注目できよう。

主催：シニックバイウェイ北海道 大雪・富良野ルート ウィンターサーカス実行委員会

共催：東日本高速道路株式会社(NEXCO東日本)、社団法人北海道開発技術センター

後援：国土交通省 北海道開発局 旭川開発建設部、大雪・富良野ルート運営行政連絡会議、一般社団法人シニックバイウェイ支援センター

協働：旭川市、砂川市、東神楽町、美瑛町、上富良野町、占冠村

Vol.1  
2006年2月25日～  
(1会場)

旭川／西神楽  
作家：富田真未

Vol.2  
2007年2月17日～(5会場)

旭川／情報拠点シャングリラパーク会場  
作家：五十嵐淳

Vol.3  
2008年2月2日～(4会場)

旭川／情報拠点シャングリラパーク会場  
作家：奥山三彩

Vol.4  
2009年2月7日～(7会場)

旭川／情報拠点シャングリラパーク会場  
作家：安藤英樹

Vol.5  
2010年2月6日～(7会場)

旭川／情報拠点シャングリラパーク会場  
作家：旭川建築士会(青年部)

Vol.6  
2011年2月12日～(7会場)

旭川／西神楽「夢民村直売カフェ Muu」会場  
作家：相原正美

Vol.7  
2012年2月11日～(7会場)

旭川／西神楽「森の雪あかり会場  
作家：富田真未

Vol.8  
2013年2月9日～(7会場)

旭川／西神楽会場  
作家：相原正美

Vol.9  
2014年2月15日～(7会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.10  
2015年2月15日～(7会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.11  
2016年2月12日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.12  
2017年2月11日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.13  
2018年2月10日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.14  
2019年2月9日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.15  
2020年2月8日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.16  
2021年2月7日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子

Vol.17  
2022年2月6日～(2会場)

旭川／西神楽会場  
作家：星素子



初回のウィンターサーカスで(2006年)で、富田真未デザインの雪のまことに、同時期の沖縄の海を投影した。さらに地域からの提案で美瑛の四季の映像も投影。以後、多くの作品に映像を映すことが定番となっていく。



富田真未《SANKAKUSUI 山角錐》2007年  
上富良野／十勝岳 吹上保養センター白銀荘会場  
十勝岳の麓に立つ、高さ10mの巨大な三角錐。夜には、聖公学校の児童が描く雪結晶のドローイングがゆらゆらと舞う映像作品が投影された。



雪が溶けてなくなるまでを定点で記録。「太陽の影刻」と呼び、人がつくった造形が春に向けて次第に形を変えていく様も楽しんだ。

写真撮影：菊池晴夫